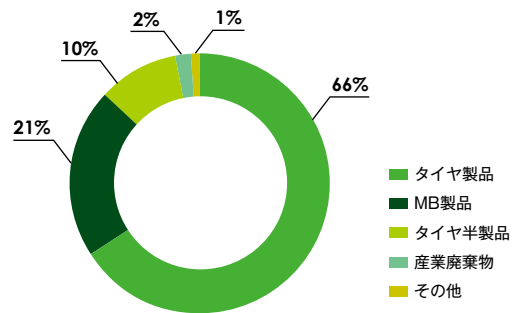


# 物流におけるCO<sub>2</sub>排出量の削減

## 全社統合集計システムでエネルギー効率の向上とCO<sub>2</sub>排出量削減を推進

横浜ゴムは特定荷主に該当したことにより、製品、半製品、産業廃棄物など法律で定める所有権の範囲において、CO<sub>2</sub>排出量などの集計システムを構築しました。削減対策では、取り引きのある運送事業者312社に「YOKOHAMAグリーン物流ガイドライン」を配布して協力を要請し、社内においては地球温暖化対策委員会に物流分科会を設置し、タイヤ、MB両部門での取り組み強化を推進しています。

2007年度の物流に伴うCO<sub>2</sub>排出量の割合



## エネルギー効率で年率3.5%改善を達成

改正省エネ法に定められた「エネルギー効率で年率1%改善」を目標に活動を展開し、2007年度は2006年度比で目標を大幅に上回る3.5%改善を達成しました。CO<sub>2</sub>排出量も約500トン削減しました。

物流における環境数値

	2006年度	2007年度
総輸送量(百万トンキロ)	232.0	235.8
CO <sub>2</sub> 排出量(トン)	28,200	27,700
エネルギー消費原単位(kl/百万トンキロ)	45.6	44.0

## CO<sub>2</sub>排出量削減に向けた取り組み

物流におけるCO<sub>2</sub>排出量削減のため、以下のような対策を推進しています。

### ■ モーダルシフトの拡大

タイヤ部門では製品輸送でフェリー便の利用率が57.2%となり2006年度比4.4%拡大しました。MB部門でもJR便の利用を1%拡大しました。

### ■ 新規ミルクラン方式の導入による集荷・配送便の削減

MB部門ではホース・配管商品の輸送で新規にミルクラン方式を導入し、工場及び倉庫間の配送便を24%改善しました。

### ■ 配送効率の向上

工場から国内販売会社への直送を731件拡大するとともに、工場パニング(輸送品を工場直接コンテナに詰めること)比率を5.5%向上し、積載効率の改善を図りました。

### ■ 産業廃棄物輸送量の削減

2007年度はタイヤ・MB生産環境部会と連携をとり、産業廃棄物発生量の削減を図った結果、輸送量は2006年度に比べ18%削減しました。

ミルクラン方式の概要図

